

## 「ご卒業おめでとうございます」

□森羅万象 萌え出づる春がやってきます。  
君たちの新たなスタートも もうすぐです。

□日本一の利根の水は、悠々と流れて太平洋に注ぎます。  
そして、その水は、七つの海を巡ります。



君たちもこれから世界に羽ばたくことのできる十分な可能性を秘めています。  
たゆみない努力で自分を鍛えながら、大きな海に向かってください。

□さあ、いよいよお別れの時が近づいてきました。  
名残は尽きませんが、一里送っても別れがあります。  
千里送っても別れがあります。

□おしまいに、卒業生代表である西川君の「卒業生の言葉」を紹介して、  
「笑顔」も幕といたします。

## 卒業生の言葉

日ごとに寒さが和らぎ、柔らかな日差しの中で、生徒玄関前の桜のつぼみも芽吹き始めています。春の訪れを間近に感じられるこの良き日、私たち二百三名は、今までの感謝とこれからの期待を胸に、第三中学校を巣立っていきます。

本日は、私たちのためにこのような立派な式を挙げていただき、本当に感謝しています。中学生としての生活が終わりを告げようとしている今、振り返れば、数々の記憶が昨日のことのようによみがえってきます。

着慣れない制服に身を包み、新しい環境に期待と不安を抱きながら迎えた三年前の入学式。このとき、私たち緑学年は新生活のスタートラインに立ちました。

新しい友人と行動を共にした榛名高原学校。カッター訓練は、初めてクラスが団結した瞬間でした。雨のために行ったカルタやレクでは楽しいひとときを過ごせました。仲間との交流も深まり、その後の学校生活で仲良くなるきっかけになりました。

二年生。休校明けの新学期は分散登校から始まりました。生活スタイルがガラッと変わり、やりづらさを感じていましたが、友と過ごすことはやはり楽しかったです。友だちの大切さや学校に行けることのありがたさを感じました。

東京校外学習が中止となり、華蔵寺ウォークラリーを行いました。秋晴れの中、班ごとに協力し、ゴールを目指して行動できました。コロナの感染予防対策を取りながら、手探りの中、行事ができることへの感謝を感じる一年間でした。

三年生。最後の大会を迎える部活動。毎日汗を流し取り組みました。時には意見が対立し、悩むこともありました。しかし、仲間や先生方のおかげで、苦しいことや辛いことを乗り越えることができました。一つの目標に向かって、お互いに切磋琢磨しながら必死に練習に取り組んだ日々は、私たちの大きな財産になりました。

各競技に一人ひとりが一生懸命に取り組んだ体育大会。クラスの団結の鍵となる長縄は、二年生で最後になってしまいました。その中でも、三年生の姿を後輩に見せることを意識して取り組みました。十二人の混合リレーは、大いに盛り上がりました。全力で走り、クラスの想いのつまったバトンを繋ぎました。スタンドからの拍手による応援が、クラスの団結に繋がったことへの感動や達成感は、忘れることができません。

学年開催となった北郷祭。たった一回の本番のために、何回もの練習を積み重ねてきました。限られた時間の中で、一人ひとりが最高の合唱を完成させるには、と考えていくうちに、クラスの絆はますます深まっていきました。迎えた本番では、全クラスが、心を一つにした三年生としての想いのこもった合唱を、体育館に響かすことができました。

私たち緑学年は、日常生活と行事を結びつけることを心がけてきました。行事だけで終わってはいけないということを大切にしてきました。日常生活を大切にし、多くの行事を経験する中で、たくさん成長することができました。

在校生のみなさん。先日の送る会では、工夫されたオンラインのクラスメッセージや部活動のビデオメッセージをありがとうございました。これからも仲間や先生方と過ごせる日々を大切に生活してください。

親身になって私たちの将来を考えてくださった先生方。時には厳しく指導をしてくださったのおかげで、今の私たちがいます。このような恵まれた環境で学ぶことができ、幸せでした。充実した三年間をありがとうございました。

たくさんの愛情を込めて育ててくれたお父さん、お母さん。十五年間の中では、反抗してしまうこともあったけれど、自分を犠牲にして私たちを支えてくださり、本当にありがとうございました。これからもたくさん迷惑をかけてしまうと思いますが、よろしくお願いします。

多くの人たちのサポートのおかげで、今日まで歩んでこられた私たち。色あせることのない日々をくれたこの第三中学校を卒業したくはありませんが、私たちは、これから別々の道を歩き始めます。自分の進む道を一步ずつしっかり歩いていきます。

三中での出会い、かけがえのない仲間、温かい先生方。三年間の全てのことに感謝し、今後の伊勢崎市立第三中学校のますますの発展を祈念して、卒業生の言葉とさせていただきます。

令和四年 三月十一日

令和三年度 卒業生代表 西川 大蔵